地歴公民科（世界史Ａ）学習指導案

学　校　名　鹿児島県立古仁屋高等学校
指導年月日　平成 29 年１１月９日（木）
指 導 学 級　１年１・２組　３７人
使用教科書　高等学校改訂版世界史Ａ（第一学習社）
指　導　者　教　諭　　米　倉　秀　和

１　題材名

第３章　ヨーロッパ・アメリカの工業化と国民形成　第３節　アメリカ独立革命

２　小単元の構成

北アメリカ植民地の形成（本時）
アメリカ合衆国の独立（本時）
合衆国憲法の制定

３　評価の観点

関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
北米東岸へのイギリス人移住，13 植民地成立から独立戦争，合衆国成立に対する関心を持ち，その上で課題意識を高め，多様な学習方法を通して，意欲的に参加しようとする。	アメリカ人の原点とも言える「自由」とは何かをよく考え，自分なりの認識を示し，植民地人の「自由」への意思がどのように独立へ向かう行動心理と結びつくかを考える。	13 植民地の経済状況を整理し，アメリカ人に自主独立の機運が高まる背景を理解する。アメリカ独立戦争の経緯を学び，13 植民地がいかにして勝利を手にしたかを理解する。

５　教材観

世界史 A の教科書において，アメリカ独立革命の扱いは２ページである。テーマも「アメリカ合衆国はどのようにして誕生したのだろうか」というもので，ただただ教科書に沿った授業内容ではきわめて無味乾燥な内容となる。ただし，「植民地軍は，なぜ本国軍にに対して優位に立てたのだろうか」という単元に広がりを持たせるための問いかけがなされており，その後の学習に広がりを持たせられるようになっている。また，２ページの中に７つの資料と１つのコラムが盛り込まれており，授業者と生徒は，それらを用いていくらでもアクティブに授業を行う事ができるとも言える。

6　生徒観

積極的な生徒とそうでない生徒との間に隔たりが見られる。しかし積極的な生徒は，見方によっては場当たり的な発言ばかりするとも言えるので，メリハリをつけるように指導する。一方で消極的な生徒は，まじめに聞いて，まじめにノートをとっているとも言えるので，ワークプリントなどで良い考えを主張すれば，評価されるようにしていきたい。また，お互いの生徒が刺激しあい，より主体的となるために補完し合うような授業を展開していきたい。

7　指導観

アクティブ･ラーニングとは何か。近年，「“机を動かす”という意味」などと，グループワーク偏重の傾向を揶揄されているきらいがある。これには，多様な生徒を相手とする一斉授業の中で行うグループワークには限界があるということを示している。また，高校教育課は「アクティブ・ラーニング授業とは具体的にどのように実践すれば良いのか」という問いに対し,「グループワークなど, 特に縛りはない（下線は筆者)」というニュアンスの回答をした。これはつまり，主体的・協働的であれば，積極的にさまざまな授業形態を実践するべきであるという意味であろう。すなわち，トライアンドエラーの気持ちでさまざまな授業形態を実践し，新しい授業像を考察していくことが重要だと考える。前回は，典型的なグループワークを行う事でさまざまな成果を得られた。今回は，世界史という教科に広がりを持たせるため，横断的な内容を目指した。具体的には，話し合いなどのグループワークを極力避け，英語の読解を用いた言語活動を通して授業を展開していく。

8　本時の実際（第５節　ヨーロッパ　２時間／１０時間）

（１）本時の目標

- 植民地の人々が，なぜ独立を目指したのか，その理由を考察する。（思考・判断）
- アメリカ独立革命の経緯を理解する。（知識・理解）
- 植民地人が不利な状況からなぜ勝利できたのかを考察する。（思考・判断）
- 独立宣言（英語）を読解することを通して，アメリカ人の原点ともいえる「自由への意志」に関心を持つ。（関心・意欲・態度）

（２）指導の実際

課程	時間	学習活動	指導上の留意点及び評価
導入	5 分	・本時の問いの確認 ・WASP とは何か，考える。	・ワークプリントを配付。 ・当時，イギリス本国において国王は神に匹敵する存在であったことを理解させる。（知識・理解）
展　開（１）	10 分	・独立宣言抜粋文の読解を行う。 ・当初，植民地にやってきた人々の考え方を理解する。	・独立宣言の読解を通して，文章に天賦人権論が反映されていることを理解する。（思考・判断）（知識・理解）
展　開（２）	15 分	・北米植民地をめぐる英仏関係を理解する。 ・「No Taxation without Representation」の読解を通じて，イギリスが印紙法を施行したねらいを理解する。 ・ボストン茶会事件の資料を読み，植民地人が何に抗しているのかを理解する。 ・独立宣言内の「destructive of these Ends」の読解を通じて，独立宣言にロックの唱えた革命権が採用されていることを理解する。	・北米植民地をめぐる地理的状況，経済的状況を理解させ，イギリスの政策が「有益なる怠慢」から「真面目に重税をかける」という状況になったことを理解させる。（知識・理解） ・印紙法は，オピニオンリーダーたちの伝達手段を奪う目的であったことに気付かせる。（関心・意欲・態度）（思考・判断） ・茶法とボストン茶会事件は現在の TPP をめぐる議論にも通ずるものであることを理解する。 ・イギリス革命を正当化したロックの主張を独立宣言に組み込んだ独立派の論理に気付かせる。（思考・判断）（知識・理解）
展　開（３）	10 分	・独立戦争に関わる主な 3 人の人物から，植民地側の強みを理解する。 ・「Common Sense」，独立宣言後半部分の読解を通じて，国内世論が独立にまとまっていったことを理解する。 ・独立にいたる経緯をまとめる。	・独立戦争当初は，植民地側に不利な要素が多くあったが，それをひとつひとつクリアにしていったことを理解する。 ・特にメディア戦略を用いて国内世論をまとめたことに気付かせる。（思考・判断）（知識・理解）
まとめ	5 分	・問いに対する答えをワークプリントに書き込む。	・教師が準備した答え以外のものに対して，明らかな誤答を除き，尊重する。 ・記述による表現を評価する。